

令和3年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨

日 時 令和3年7月12日（月）14：05～16：25
場 所 WEB会議
構 成 員 8名（出席者6名）

（幹事会委員）以下は「幹事会幹事会運営に関する申し合わせ」第2条の号数

1号委員（がんセンター長）	増田 昌人
2号委員（沖縄県立中部病院）	朝倉 義崇
3号委員（那覇市立病院）	友利 寛文
3号委員（沖縄県立八重山病院）	菊池 馨
3号委員（北部地区医師会病院）	柴山 順子
3号委員（沖縄県立宮古病院）	松村 敏信
4号委員（琉球大学上原キャンパス事務部総務課長）	金城 不二子

（欠席者）

4号委員（沖縄県保健医療部）	糸数 公
----------------	------

（陪席者）

沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班	新垣 真太郎
琉球大学病院診療情報管理センター	有賀 拓郎
がんセンター	石川 千穂
上原キャンパス事務部総務課総務第二係	平良 英貴

議事要旨・委員一覧

1. 令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(4月12日開催)について
2. 令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(5月7日開催)について
3. 令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事録(5月7日開催)について

増田議長から資料1から資料3に基づき、令和3年度第1回幹事会及び協議会議について確認があった。

4. 協議会・幹事会委員一覧について

増田議長から資料4に基づき、協議会・幹事会委員の変更等について説明があった。

5. 令和2年度の協議会・幹事会の開催の日時について

増田議長から資料5に基づき、協議会・幹事会の開催の日時について、第3回の幹事会及び協議会について、それぞれ幹事会は令和3年10月11日（月）、協議会は令和3年11月19日（金）に変更する旨報告があった。

審議事項

1. 沖縄県における「ライフステージに応じたがん対策」分野の進捗状況について

増田議長から、資料6に基づき沖縄県における「ライフステージに応じたがん対策」分野の進捗状況について説明があり、以下のとおりライフステージに応じたがん対策として①小児・AYA分野及び②高齢者のロジックモデル（案）について審議した。

①小児・AYA分野**（資料の特性・定義等）**

- ・小児分野はアンケート調査の回答数が少ない。
- ・小児分野の多くは保護者等が回答している。
- ・小児は0歳から14歳、AYA世代は15歳から39歳と定義する。

(検討内容等)

・中間アウトカムの指標として記載のある「初診から確定診断までが1ヶ月未満であったと回答した人」、「確定診断から治療開始までが1ヶ月未満であったと回答した人」について、指標として適当なのかを、小児AYA部会で再検討したい。

(その他)

・令和3年8月6日に開催する本協議会での意見を受け、同月19日に小児・AYA部会で詳細を検討する予定である。

②高齢者

(資料の特性・定義等)

・本モデルは未調整な箇所が多いことから、再度医療部会で検討する予定である。
・がん診療において高齢者の年齢については、明確な「〇歳から」は存在しないが、一般的に通常の治療が困難になることが多い75歳以上を想定している。

(年齢に対する意見)

・治療の際は、個人の体力を含む健康状態やどのような治療を望むか等により決定するため、実際に診療する際に「〇歳から高齢者」と線引きをすることはない。ただし、本ロジックモデルでは指標を設定してがん対策を評価するため、一定の年齢以上(例えば75歳以上)を高齢者とする必要がある。

(「施策」に記載されている「高齢者のがん薬物療法ガイドライン」、「高齢者がん医療Q&A総論」、および「高齢者がん医療Q&A臓器別」について)

・ガイドラインの存在については認識しているが、内容を確認していない医師が多いように感じる。
・ガイドラインが多数存在することから、医師自身の専門とする領域外の資料を全て確認することは困難である。
・具体的なインセンティブ(例えば診療報酬に関連する等)があれば、周知されるのではないかと。

2. 沖縄県における「それぞれのがんの特性に応じた対策」分野の進捗状況について

増田議長から、資料7に基づき沖縄県における「それぞれのがんの特性に応じた対策」分野の進捗状況について説明があり、以下のとおりそれぞれのがんの特性に応じた対策として、希少がん、難治がんのロジックモデル(案)について審議した。

(希少がんについての諸確認)

・「施策」に記載されている「すべての医療機関は、希少がん患者を県拠点病院に紹介する」について、希少がん患者を県拠点病院(琉球大学病院)で治療することに関しては、医療部会に引き続き幹事会委員からも賛同を得られた。
・県拠点病院(琉球大学病院)に設置されている「情報共有端末」を用いて全国の希少がん診療の諸状況の確認が可能であることから、各医療機関の主治医等が県拠点病院(琉球大学病院)のがん相談支援センターに積極的に患者を紹介して、情報提供を受けられるようにすることをお願いしたい。

(難治がんについての諸確認)

・診療の質の評価が重要となることから、まずは国立がん研究センターのDPCを用いたQI評価について、県内各医療機関へ参加を促す。さらに、未実施理由を診療録から採録するところまでを、すべての専門医療機関で実現できるように図っていくことになった。一方、採録に関しては、追加業務となることから、各自の所属先で対応可能か検討することとなった。

3. 沖縄県における「離島及びへき地対策」分野の進捗状況について

増田議長から資料8に基づき、沖縄県における「離島及びへき地対策」分野の進捗状況について説明があり、以下のとおり離島及びへき地対策について審議した。

(離島医療についての諸課題)

・離島への配属される医師の専門性により、対応可能な治療が異なる場合があることから、今年は「○」だが、数年後「×」の可能性はある。毎年確実に調査を行い、現状を把握する必要がある。
・離島で対応不能な治療法は、本島で治療するしか選択できないが、一方、ある治療について専門性を持った医師が離島に配属されている場合等、離島で対応可能な場合、又はその逆で、医師の移動に伴い対応できなくなった治療について、広報等で周知することが課題となる。
・中間アウトカムにあるように、理想としては「地元で標準治療が受けられる環境が整う」ことが望まれるが、そのためには例えば、離島(宮古島又は石垣島)に、放射線治療が可能な施設(人材

を含む)を設置するなど要すこととなる。現実的には、数年で全ての標準治療を離島で行うことは困難であることから、例えば「施策」に記載されている「がん診療のための渡航費や交通費及び宿泊費を助成する」ことについて、移動に係る助成金の金額等だけでなく、使いやすいルールへ更新することや、I O T技術の活用により離島からの移動回数を少なくするような方策も検討していくことも有効ではないか。

4. 第2回沖縄県がん診療連携協議会議題調整について

増田議長から資料9に基づき、令和2年度第2回沖縄県がん診療連携協議会議題調整について説明があり、原案のとおり議題とすることとなった。

5. その他

特になし

報告事項

1. 第3次沖縄県がん対策推進計画(2018~2023)の中間評価について

沖縄県健康長寿課新垣氏(オブザーバー参加)から、第3次沖縄県がん対策推進計画(2018~2023)の中間評価について、進捗が遅れている旨の報告があった。

2. 沖縄県におけるがん対策費について(平成28年度~令和3年度の予算及び決算の推移)

沖縄県健康長寿課新垣氏(オブザーバー参加)から、資料10に基づき、沖縄県におけるがん対策費について(平成28年度~令和3年度の予算及び決算の推移)の報告があった。

また、増田議長から、県の計画と予算との紐づけについて、前回協議会で埴岡委員から情報提供のあった島根県のがん対策予算の見せ方を参考に、次回協議会までに、第3次沖縄県がん対策推進計画の各項目に合わせて、予算がどのようにしているのかの表に組み替えてほしいと再度要望された。

3. 患者会よりの報告

(1)安里委員報告

(2)真栄里委員報告

(3)島袋委員報告

4. がん教育について

5. 北部地区医師会病院と琉球大学病院との定期的なカンファレンスについて

6. がんゲノム医療について

7. 沖縄県がん地域連携クリティカルパス適用状況について

8. 沖縄県がん患者等支援事業の活動報告

9. 沖縄県地域統括相談支援センターの活動報告について

10. 厚生労働省におけるがん関連審議会及び各種会議

(1)第16回厚生科学審議会がん登録部会

(2)第1回がんの緩和ケアに係る部会

(3)第1回第8次医療計画等に関する検討会

増田議長から、各自確認いただきたい旨、発言があった。

11. その他

朝倉委員(2号委員)から、がん診療拠点病院の要件の1つである緩和ケアに関する研修会について、厚生労働省へ以下のことを確認したとの報告があった。また、同省の見解として、少なくとも2年に1度は研修をすべきとのことから、グループ指定を軸に地域がん診療病院との共同開催を含めた実施方法を検討していくこととなった。

部会報告事項

1. 医療部会

2. 緩和ケア・在宅医療部会

3. 小児・AYA部会
4. 離島・へき地部会
5. 情報提供・相談支援部会

増田議長から、各自確認いただきたい旨、発言があった。

以上